

“ 想い ” も 瓶 に 詰 め て …

ジャム工房 緑夢(ミドリーム)ファーム
代表 寺 町 敬 子

◆ 齢六〇年足らず…

秋も深まり紅葉が枯葉に…やがて大地は静かな眠りの頃となる。

寒いのが嫌いな私には、ビートの収穫時期と冬支度をする十一月初めころが一年で一番つらい季節となるが、外仕事が終わるのが少し嬉しい気にもなる。

今年の春は、昨年よりも順調に蒔き付け作業が進んだのだが、五月末頃の強風と横殴りの降雨にビートや玉葱の苗が傷み、秋の収穫が心配されたがその後の天候の回復などで何とか出来秋を迎える事ができた。

五月の嵐の被害で、一番打撃を受けたのが樹齢六〇年近くなるサクランボの樹が裂けてしまったことだ。

平成九年の北大のポプラ並木が倒れたあの台風の時にも痛手を受けたのだが、支えをしたり縄などで補強したりしてもたせていたものだった。



「この実を採ったら、この樹は倒した方が良く、芯が傷んでいてこのままでは危ないから」と、サクランボの樹を見て専門家に言われてしまった。補強に補強を重ね、支えを増やし、七月の収穫までは頑張ってくれたこのサクランボの樹。切り倒した時は、一番収穫量の多い

寺 町 敬 子(てらまち けいこ)さん



☆家族経営の畑作農家

☆夫・私・長男の3人で、約26ha(玉ネギ・小麦・ビート・小豆)規模の農業を営んでいます。

☆信金職員として勤務の後、夫と結婚し農業に従事。

平成7年地元の仲間と共に、『ところよめさんねっとわーく・さくらちゃん』を結成。

☆平成15年緑夢(ミドリーム)ファームとして、自家栽培の果実・野菜を使い農産加工を始める。

☆農の暮らしは、楽しい!”を、コンセプトに活動中です。

北海道女性農業者倶楽部(マンマのネットワーク) 副会長

北見市社会教育委員

北見市常呂自治区社会教育推進会議 会長



何かと思いい入れのある樹だったので複雑な思いがした。

我が家には、樹齢三〇年の樹と六〇年近くなるサクランボの樹があり、収穫したものは数種類のジャムなど加工販売している

義父母が分家した六〇年程前から蒔いたものなのだ。

まだ暮しに余裕のなかつた当時、

子供たちのおやつにでもなつてくれれば…と、義母の実家からもらつてきたサクランボを一握り食わずに蒔き数本の芽が出たものを大切に育ててきた生き残りの樹で、私がこの家に来たころは三本のみになつていた。

やがて、子から孫へと夏の楽しみを実らせてくれた。地域の保育所の散歩コースにもなつていて、サクランボの樹の下で楽しげにその実を食べている子供たちの笑顔を見る義父母の嬉しそうな顔を出す。

殆ど選定などしていなかつた樹は、大きく枝を張り葉を繁らせ真夏の日差しを柔らげる、四隅に柱のない東屋のようであり、だれかれとなく樹の下で涼んでいたものだった。子供たちが幼かつた頃は、賑やかな遊び場でもあつた。

年を重ね大きく沢山の実がなるようになると、人の手の届かないところはカラスや鳥たちが枝を揺らすほど押し寄せてくるようになっていった。

◆勿体ないな…から始まった。

二〇年ほど前のこと畑仕事の休みに、サクランボ食べ放題をしていて…「こんなに実がなつて、こんなに美味しいのに…勿体ないな」と、思った。

同じころ、『農家の嫁』どころか『農家』そのものに不安をいだいていた女性達が集まり、あるグループを作った。

その名も、『ところよめさんねつとわーく・さくらちゃん』（以下さくら）である。嫁というきつそうな立場を少しでも明るく前向きになれるように命名したが、今では、『ところおばさん…』とした方が良いのではないかと思うくらいになつてしまつたが。

それはさておき、さくらについての詳しい活動などは次回にするとして、おおまかに言うと「農家つて面白いよね！」「農の暮しは豊かだよね！」「食を育むつて、すごいよね！」と思えることを仲間と楽しくやろうよ！といういろんな事

をやつてきたグループである。

仲間と共に色々な事を学ぶにつれ、自身自身が楽しく農の暮しを営んでいるだろうか？本当の豊かさとは？と、何か想いを形にできないものか考えていた。



◆山あり谷あり…

そして壁もある

そして、思いついたのが目の前に沢山なつているサクランボを加工することだった。

結婚して間もなくから、毎年自家用イチゴジャムは作っていたが、試行錯誤が始まつたのが二〇年程前であつた。

何年か悪戦苦闘し友人などにあげられるようになると、「美味しいね、次もつくつたら欲しい」と言われるようになった。そう言われると「売れるかも…」と思つてしまつたのが加工をしてみようと考えたきつかけだった。

が、行く手を阻む壁は数知れず多かつた（笑）。まず、家族の理解・加工場に関わる事（資金とか保健所）・販売先などなどである。

なんとか家族を説得し、ふとした思い付きから幾年か経つた平成一五年夏サクランボの収穫時期に農業用倉庫の一角に

小さな加工場が完成した。自分のお城が出来たようで嬉しかったのと、やっていけるのだろうかという不安が入り混じる思いでジャムづくりをしていたのを思い出す。

畑仕事の合間の作業なので、沢山は出来ないが地元のホテルの支配人さんに協力してもらい、ホテルで朝食用に卸させてもらった。朝食で食べたお客様が売店で購入してくれるという流れの中に入れたことが、ほんの少し私に自信と勇気をくれた。



ルの支配人が替わり取り扱いが停止された。大方の売り上げをホテル頼りにしていたので打撃は大きく挫折しそうになった。そんな時、私に叱咤激励をくれたのが北海道女性農業者倶楽部（マンマのネットワーク）の諸先輩方だった。

「そんな事挫折でも失敗でもないわ、きちんと足元を見直して、出来ることからまた始めれば良いでしょう。今回の事は良い教訓になったのだから、そこから学び取る事が出来るはずよ」と、すでに私の何十歩も前を歩んでいる方の力強くも温かい言葉に、また新たに始める勇気をいただいた。

◆大地にしつかりと根をはって

加工販売を手掛けて、一〇年を過ぎた

が相変わらず畑仕事の合間にするのであるから右肩上がり…というわけにはいかないが（笑）、六種類の自家栽培の果実を使い九種のジャムとフルーツソース二種、トマトソースなどを数か所の店舗においてもらっている。そのほかにイベントなどでは、ジャムとパンや菓子類も販売するところまできた。

ジャムやソースの果実や野菜を自ら管理し収穫、加工販売できるのも、私が農業者だからこそだと思っている。対面販売では、一連の流れを全て話す事が出来るのも利点だと思う。だからこそ、ひとつひとつ大切に育み、丁寧に作らなければいけないと考える。

オホーツクの風雪に耐えしつかりと大地に根をはり齢を重ねた樹の様に、そしてまた、その樹の種を想いを込めて蒔いた義父母の様に、私もこの地で暮らしていきたい。

他にイベントなどでも試食してもらってお客様の反応を見ながらいろいろと学ばせてもらいながら今に至っている。販売を始めて五年、右肩上がりに売り上げをあげていたが（少額です）、ホテ